**教育行政を正せるのは皆さんです！**

**～議員さん、出番ですよ！～**

**2017年3月31日に学習指導要領が発表されて、小学校では2020年度から、中学校では2021年度から本格実施されるというのに、国内各自治体の教育委員会の中には、新たに示された「持続可能な社会の創り手を育成する」という学習指導要領の「理念」に対して、あまりにも無知なところが多くみられます。**

**市の「教育振興基本計画」等に「未来を築く力を培う」といった理想的な目標を掲げていたとしても、それを「教育施策」として具体化する段階になると、いつの間にか旧態依然とした「愚策」を並べているだけになってしまうのが一般的です。　　　　　　　　　　　　　　　　　　具体的には「少人数指導の充実を通じた学力の向上」と「職員の研修」だけを掲げている時代錯誤の自治体も多いのです。「少人数指導」も「学力の向上」も悪いわけではありません。むしろ重要な施策の一つです。しかし、それだけで新しい時代を切り開けるほど、世界も時代も甘くありません。英語や道徳も重要です。しかし、それさえも今回の改定では枝葉にすぎないのです。そのような認識で職員の研修と言っても、何を学ばせるのか怪しいものです。**

**学校教育の方向性を見直し、21世紀型の教育に変えていかない限り、大学は出たけれど使い物にならない「学力優秀な世界の落ちこぼれ」を大量生産することになりかねません。**

**学校の子どもたちの学びをより良く変え得るのは、校長を含む学校の教員です。また、その学校や教員を変え得るのは、教育委員会の教育理念であり教育施策です。しかし、教育委員会が「わかろうとしない」ようでしたら、それを変え得るのは誰でしょう。それは、地域住民の代表である議員さん方しかいないのです。強面で迫って「教育行政をぶった切る」か、それとも笑顔に包んで「このままだったら、質問して、めった切りにしますよ。課題もはっきりしています。」とは口にもせずに、穏やかに問題点をさりげなく伝え、改善を促すかは、議員さん方の腕次第です。要は、教育委員会がどのように動くかが重要なのです。**

**私は様々な区市町村等の教育施策を拝見し、助言もしてきましたが、ここでは教育施策の良さや課題を的確に見取るための６つの視点を示しましょう。皆さんの区市町村のどこに課題があるのか、どこに配慮をすれば改善できるのかが見えるようになります。**

**１、基本方針として「未来を創る」「持続可能な社会の創り手の育成」等を掲げ、地域　や世界の一員として責任を果たすことを掲げているのか。それとも知識・理解を中心とした明治以来の「知・徳・体」の教育しか考えていないのか、見極めましょう。これは学習指導要領で新たに前文として示された「理念」につながる重要な点です。**

**2、次に、目標や基本方針等に「生きる力」あるいは「生き抜く力」等の育成を掲げて　いるのか、「学力の向上」至上主義なのか、見極めましょう。**

**３、施策の段階に向けて、「確かな学力」を掲げているとしても、それが「学力の向上」を意味しているのか、それとも課題解決に必要な「思考力・判断力・表現力」や学ぶ意欲などの育成を意味して書いているのか、見極めが重要です。**

**４、指導観や指導方法の工夫・改善として、「主体的・対話的で深い学び」つまり問題**

**解決的で協働的な学習を目指しているのか。それとも、教え込む技術者としてのベ**

**テラン教員の活用しか考えていないのかが問題です。**

**５、さらに重要なことですが、学習指導要領、総則の第１で示した「カリキュラ**

**ム・マネジメント」の扱いです。それは具体的には、第2「教育課程」で、わざわざ総合的な学習の時間との関連にふれて「教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と示しているものです。これは、端的に言えば「ＥＳＤカレンダーをきちんと作っていますか」ということです。学びをつなげ、深めるためのイメージマップと、その指導計画書と言えば、少しお分かりいただけるかもしれません。これができていないために、多くの学校で「総合的な学習の時間」を勝手に流用するなど、きちんとした実践ができてこなかったのです。**

**６、特に議会の文教委員になっている方、各小中学校の「教育課程」をご覧になった　ことがありますか。「学校要覧」ではありませんよ。今年度どのような方針の元に、教育に取り組み、各教科・領域等では、どんな点に工夫や配慮をして指導を進めていくのかを書いた、その年度の教育の総合計画のようなものです。上記の１～６の視点で教育課程を見直してみてください。各校がこれらをきちんと意識した実践を進めているようならば、安心です。そうでないとしたら、教育行政の指導方針や、その具体的な指導の進め方に課題があったのかもしれません。**

**12月には、各学校で年度末の学校評価をして、それを生かした次年度の教育課程編成にとりかかることと思います。学校評価の視点に「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」が示されているようでしたらひとまず安心ですが、その視点もないと教育改善に向けた現状の把握ができず、改善が全く進みません。**

**いくら議員さんでも、これらの学校の事情を全て理解して質問までするのは難しいことと思います。そのような時には、この記事をコピーして「このようなものが今、わが党の議員の間で話題になっているのですが、ご存知ですか」「党から『学習指導要領の改訂とその実現』に向けて教育施策を見直すように」といわれて勉強を始めたところです。この辺りのことに詳しい方がいらっしゃったら、今度事前にご指導いただきたいと思っているのですが、どなたかいらっしゃいませんか。などと聞いてみるのもいいかもしれません。教育委員会の方々にも問題意識を共有してもらい、一緒に考えていただけると話が早く進みます。**

**さて、このような問いかけに対して、「そんなことはあなたに言われる前からわかっていました。このように・・・取り組みを進めています。○○市の教育はきちんとできています。」と言わんばかりに、言い訳に終始する行政担当者が、一般的には多いようですね。また、議会などで正面から論争を挑むとこのような対応になりがちです。**

**しかし、ある議員さんの働きかけを契機に、市としての教育行政が真摯に見直され、２か月もしないうちに、新学習指導要領の示す方向性に向かって実際に動き始めた市がありました。埼玉県の久喜市でした。**

**「基本目標の中に『カリキュラム・マネジメント』や『教科等横断的な指導の充実』という視点が欠けているように見えますが、このままでは教科分断的な指導から抜け出せないように思われます。そして、本市が目指す『総合的な人間力の育成』も不可能と思われます。」「小中学校の連携についても、『主体的・対話的で深い学びづくりを目指した小中学校の連携』として、問題解決的な学習過程の重視といった具体的な学びの姿を意識するように踏み込んでみてはいかがでしょうか」などと、議員さんを通じて提案をしましたが、真剣に受け止めてくださったようでした。**

**逆に、教育委員会からの提案で、市の研究指定校の夏季校内研修会に講師として私を招くことになり、その学校の職員だけでなく、市内の小中学校の管理職も教育委員会の課長さんも指導主事さんも、教育長さんまでも一緒になって参加してくださいました。**

**その日の研修は、ＥＳＤの必要性や取り組み方などワークショップ形式で進めましたが、参加者の主体的・対話的で深い学び合いがそこここで展開されました。学校の教員と教育委員会の職員が一緒に学び合うなど、聞いたこともありません。このようなことは、普通は全く考えられない奇跡的な出来事ですが、久喜市の教育は、開かれています。新しい学習指導要領の理念に向かって全市でスクラムを組み、大きく進み始めたのです。**

**この教育委員会には、元々、実践に基づいたしっかりした教育理念があり、それがＥＳＤの理念と響き合うことで大きく前進しましたが、今回は、自分たちの市の教育をより良いものにしたいという熱心な議員さんの上手な働きかけも功を奏したようです。それだけ、議員さん方の役割も可能性も大きいのだと思います。**

**平成から新しい時代に向かって、日本の教育を変えるときです。議員さん方、出番ですよ！**